

数学的に新たな「和」の解の一つを導く

1. ×

異質なモノ、機能の掛け合わせ

和の伝統文化である「銭湯」



アメリカ発祥の「バー」



×

裸の付き合いがとれ、非言語コミュニケーションの場である銭湯
一人または少人数でお酒を飲む場であるバー
外国人観光客と現地の人々、どちらにも親しまれる空間を創る。

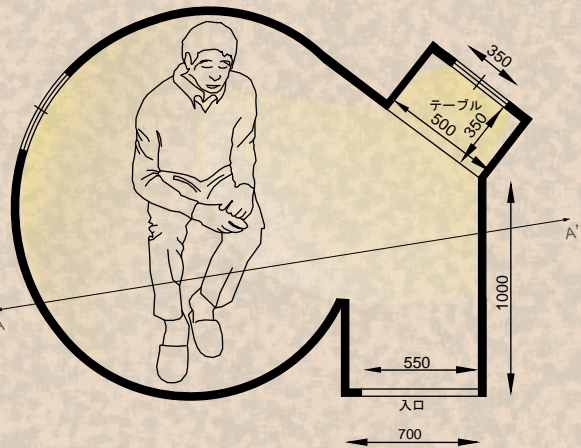
3. —

身体性のみを残す

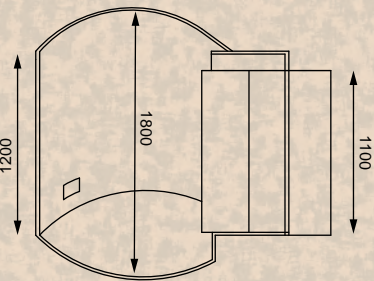
余計な機能を全て削ぎ落とした結果、残るのは身体性だけの空間である。
千利休は2畳のような極小茶室を好み、茶と向き合った。
分割されたバーの客席において、身体性以外の機能を削ぎ落とし、
1対1で酒と向き合う身体が必要とするだけの空間を創り上げる。

・ **光と身体性**
入口付近には光が当たらず、光のある奥へと引き込まれる。
暗い部屋に入るわずかな光により五感が研ぎ澄まされる。

客席個室 Plan 1:30



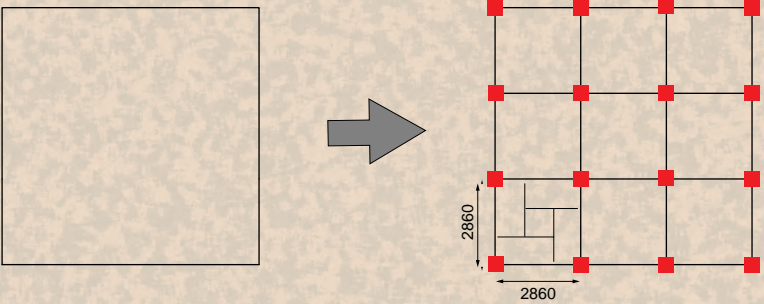
客席個室 Section 1:50



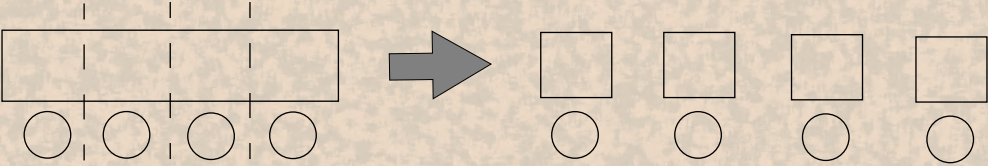
2. ÷

分割、分配

空間を4畳半という和の基本単位のグリッドで分割する。
4畳半の大きさは、広すぎず狭すぎず、公共空間において
自らの領有意識をもつことのできる最適な空間である。

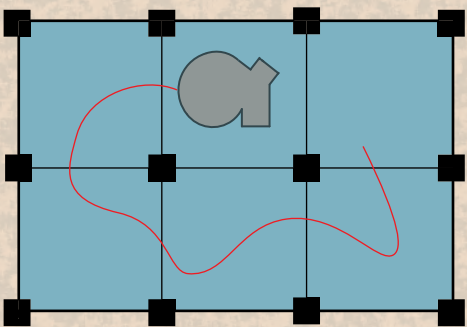
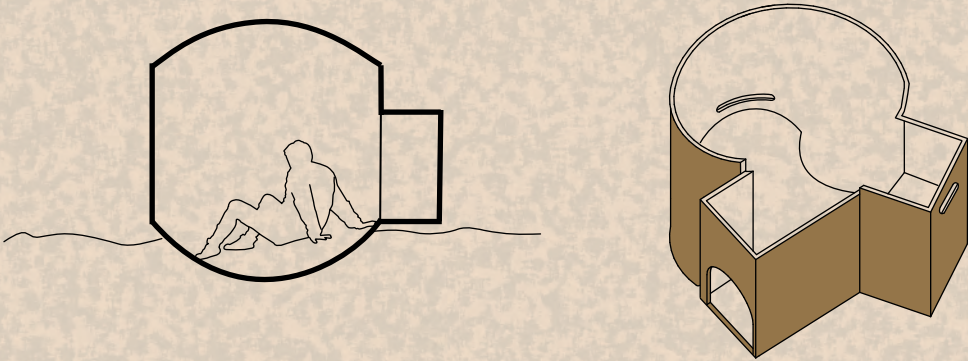


バーの従来の横並びの客席を個別化し、酒と向き合う場を創る。

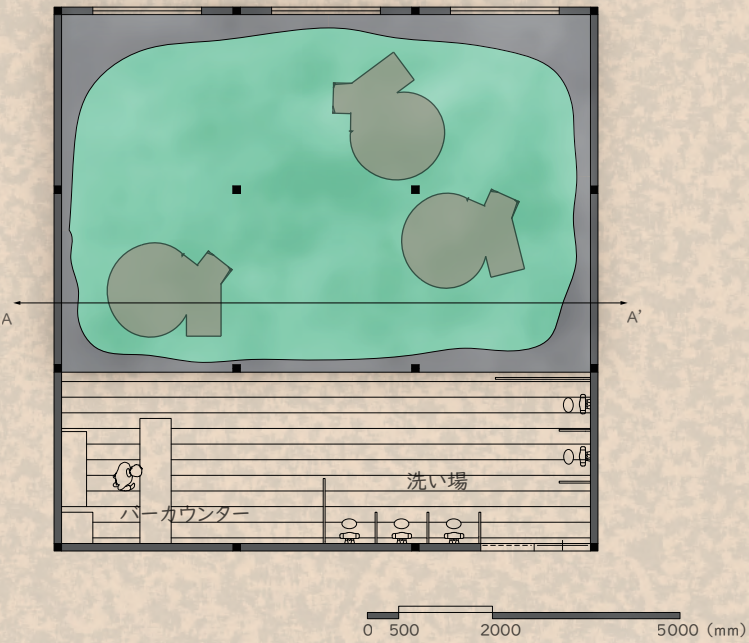


数学的に「和」を解くため、×÷を先に実行する

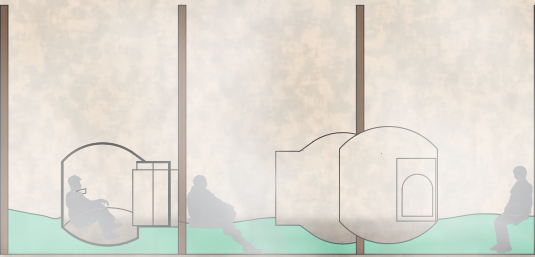
・ **重力と身体性**
銭湯の大浴場に浮かべたこの客席個室は、浮力により弱まって感じる重力と、
湾曲した床によって、人間がより自らの身体を感じ、新たな感覚的重力を得る。



浮かび漂う個室は、グリッドを崩しながら
予測不可能な動きを見せる。
グリッドがつくる領有意識は徐々に崩れ、
訪れた人々の距離は、
物理的にも心理的にも変化する。



銭湯 Bar Plan 1:100



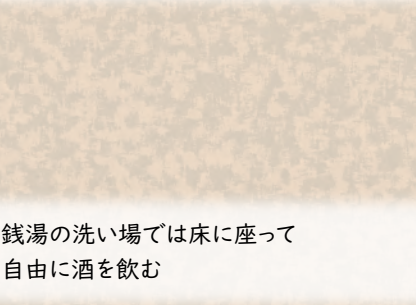
銭湯 Bar Section A-A' 1:100



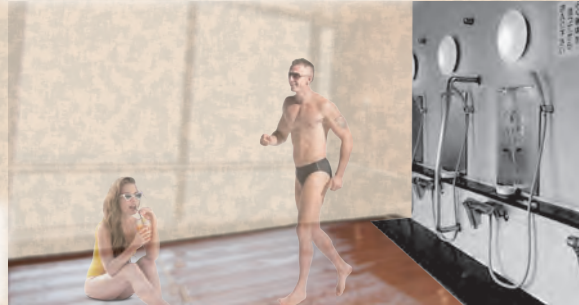
足元に入る僅かな光が五感を刺激する



身体性のみを残すと空間が無限に感じる



銭湯の洗い場では床に座って
自由に酒を飲む



この和の方程式を用いて私は解の一つを導き出しただけにすぎず、
どのような機能・プログラムでも方程式は「和」の空間へと変貌させ、
その解は無数に存在する。